

一〇ノ一、細々要記 具秀朝臣笠置寺巡見

出典 細々要記、古事類苑宗教の部に記載

解説 永和二年（一三七六年）に具秀が笠置寺再建のため笠置を訪れたが、南北朝の動乱のなか再建は実現せず。元弘の役から五十年後、やっと完成した礼堂も十数年後火事で焼失して、本格的な再建作業は文明年間の貞盛を待たなければならなかった。

細々要記は興福寺の実験僧正が記したもので、建武元年から永和三年迄の出来事が記されている。

原文

永和二年（南方天授二年）三月十二日、具秀朝臣、南都を発し、城州笠置へ登山せらる。彼寺、去ぬる元弘元年、後醍醐帝皇居の時、東国の凶徒焼払をはんぬ。其後建武二年、御造営の御沙汰ありける中、天下大乱につき、中途にして造作を止む。其後、乱逆不治によつて、今に沙汰なし。今年南山の帝御願によつて、造営の御沙汰あり。具秀朝臣巡見のため、発向せらると云々。紀州の山より材木をてんじ、北畠殿より人夫を差向らるべきよし云々。十五日、具秀朝臣、南都を経て、吉野に向はると云々。